10.付録・実験後インタビュー

実験後被験者に行ったインタビューの全文を本章に掲載した。インタビューは匿名で実施している。

【A さん】

筆者：えっとじゃあ早速なんですけど、この死を変換するに投票してみてどうでした？なんか簡単に、こう作品に対するフィードバックみたいなのとかってあったりしますか

A そうですね。普段食べられるかどうかみたいなことっていうのは、考えたことなかったけど。でもなんかちょっとフィクション要素もありつつ、興味はある分野だったので、実際にどうなんだろうっていうのを具体的に考えたってのは初めてでした。

筆者：ありがとうございます。
ちなみに愛する人の方は生身の遺体で投票してますけど、これなんで遺体で投票したのかみたいなのって理由は教えていただけたりしますか？

A：理由としてはやっぱり一緒になりたいって言う思いがあって、お腹の中に入ってくることで、1 つの存在になるなとか、ずっと一緒に生きていくみたいなそういう思いで遺体を食べたいなってふうに思いました

筆者：なるほど、遺体を食べるってことに気持ち悪さみたいなものは感じませんでしたか？

A：特にそういった気持ち悪さみたいなのは感じませんでしたね。なんか愛してるからこそ食べたいなって思いました

筆者：ありがとうございます。じゃあ次に初対面の方の投票聞きたいんですけど、これは火葬の作物で答えてますけどなんでこれを選んだんですか？

A：そうですね火葬の作物って、火葬してあるっていう状態って、火葬ってお葬式の最後のみんなでやるものだし、なんかもそこまで来たらお肉も火を通すと危なくなくなって食べられるようになると言うか、危なくなくなるみたいな感じがあるじゃないですか
その感覚で、火葬が終わってたらもう危ない状態みたいなのは過ぎてるかなぁって感じもあります。しかもその火葬した状態そのままとかじゃなくて、さらにそこからこれに、作

物って言う普通の食べ物になってるんで、特に危ない要素みたいなものを感じなくて、それでここの状態なら食べられるかなっていうふうに思いました

筆者：初対面の人には危ない要素があったんですか？

A：あるある。ありましたね。愛する人と比べるとやっぱり、んーなんか食べるって言う話で、連想しちゃったんですけど、初対面の人と同じコップで水飲むのできないじゃ無いですか。好きな人なら、なんともなくできますけど。それと近いのかもしれないです。

筆者：なるほどじゃぁちょっと次の質問行きたいんですけど、逆になんか遺体のその後の変換の段階、例えば灰とか熱とかそういったものが食べれないみたいな感覚を抱くことってあったりしますか？

A：基本的には私自身は愛する人の場合であれば遺体食べれるので、そのあとはなんでも食べられれば食べます。遺体直接食べられるのに、その後の作物とか食べる必要あんのかなって感じはあるんですけど、多分大事に食べますね。うん後ろならなんでも。あ！でも腐肉がちょっとさすがに腐ってるっていうのが、思いがどうとかって言う話じゃなくて、普通にお腹壊しそう病気になりそうで、それはちょっと嫌かなぁっていうのだけだから、腐肉だけ避けられたら後は何でも食べられるかなってふうに思いましたね。

筆者：ありがとうございます。あのーちなみに何かこう愛する人を食べて一つになりたいみたいなことをお話をされていたと思うんですけど、何か 1 つになる時ってそれは魂が重なるみたいな感覚ですか？それとも普通に体の構成物となってみたいな、どんな感覚が沸き上がってくる感じですか

A：どちらかというと私は魂ですね。そのままの意味で体の一部になるとか言っちゃうと、人間てすごく毎日毎日皮膚とかぼろぼろ剥がれて入れ替わっちゃってすぐに何か体から抜けていっちゃう感じがあるんですけど、でもなんか魂って言う要素であればずっと一緒にいられるかなっていうふうに思いました。食べてあげるっていうことが骨壷を部屋に置いとくみたいなことよりも 0 距離じゃないですか、だから 1 番わかりやすい亡くなった人に届きやすい愛情表現かなってふうに思いました。

筆者：ありがとうございます。じゃあ最後の質問なんですけど、例えばあなたの愛している人を他の人が生身の状態で食べれますって言ったらどういう感情になりますかね

A：あぁちょっと嬉しいかもしれないとも思うんですけど。でもやっぱり実際やられると

思うとやめて欲しいですかね。今想像してる人が恋人とかそういうパートナーなんですけど、やっぱりそういう人は私だけのものでいて欲しいみたいな感覚があるのかなって思います。家族とかだとまたその家族にもパートナーがいるでしょうし、思いみたいなのは変わってくるかもしれないです。

筆者：なるほど。ありがとうございます。質問は以上です！

【B さん】

筆者：じゃぁインタビューを始めさせていただきます。基本的に聞きたいことは 4 つあって、まずは作品に対してどういう感情を抱いてもらったのかみたいなことをお聞きして、その後で初対面の人と愛する人で何を食べたかっていうところを踏まえて、なんでその状態で食べたいと思ったのかということをお聞きしたいです。また次の質問はその後でさせて貰います。

B：はーい。よろしくお願いします。

筆者：じゃあ早速なんですけど、今回の作品参加していただいて何かどういうこと思われたかみたいなのってあったりしますか？

B：そうですね！この作品を見る前からなんとなく考えていたんですけど、まあやっぱり食べるなら遺体だなと思ってて、でもやっぱり実物の遺体を見たらどうなんだろうとか思うんですよ！思ったより冷たくてブニブニだと思うので、本当の遺体とか置いてあったら、また変わってきたかもしれないです。

筆者：確かに遺体のところはもし次やることがあれば、もっと生々しいものを置きたい！

筆者：じゃあ早速 1 つ目の質問ですけれど、B さんは愛する人を食べるならば遺体の状態で食べたいっておっしゃってるんですが、これって何か理由があったりしますか？

B：そうですね。やっぱり愛する人なら直接かみしめてあげたいですし、それで食べることによってなんかその後も一緒に過ごせるみたいなそういう感覚になれるんじゃないかなっていうふうに思います。その後のずっと続いていく人生ですね。少なくとも他に一緒に過ごす人みたいなのが現れても、その人のことをそれだけのことをしたら忘れないみたいな。感覚を持ち続けられそうだなって思います

筆者：なるほど、その人の魂を食べるみたいな感覚ですか？

B：魂と言うとちょっとありきたりな感じかもしれませんが、魂が何なのかみたいなのは置いといて、食べることって進撃の巨人の読みすぎかもしれないですけど、その人の記憶とか思い出とかそんなものまでいっぺんに手っ取り早く引き継げる、そういう方法な感じもしていて、そういう意味でその人の身も心もって言ったらアレですけど。まるっと食べるみたいな感じですかね。

筆者：なるほど、確かに力の継承でそう言う場面出てきましたね。

B：それです！

筆者：じゃあ今度は逆に初対面の人の方お聞きしたいんですが、火葬の作物と言うふうに答えましたけど、これを選んだ理由みたいなのは何かありますか？

B：作物選んでる人多かったと思うんですけど、私も多分同じ理由で他の人と、まぁ食べられる状態だったらさすがに食べられるんじゃないかな位の感覚ですね。そもそも作物っていろんな何か生物の死骸とかが積み重なってできてきてるみたいなイメージがあるので、その中の 1 つに人間の遺体のしかも骨の粉が混ざってもあんまり気にならないじゃないかなと思います

筆者：なるほどなるほど。ちなみに、この遺体後の変換段階は食べられますか愛する人とかの場合は

B：全然食べられると思います。愛する人だと灰とかでも全然楽勝で食べられると思いますね。でもやっぱり初対面の人となると灰でも厳しいですね。直接はちょっと相手の遺族にも悪い感じがしちゃうので

筆者：ちょうどそれと関連したことを最後に聞きたかったのですけれど、例えば他の初対面の人があなたの愛する人を食べたいです。みたいなこと言ってきたらどういう感情になります。

B：最悪ですね。まじで近づくなって言う感じになると思います。でもそれが相手の家族とかならまだしも初対面の人ですよね。抵抗しますね。

筆者：ありがとうございます。これで質問は以上です。

【C さん】

筆者：始めますえっと、じゃあまず今回のこの作品について何か考えたこととか、全然質問内容とかと関係なくていいので何か思いついたことでもいいのでありますか

C：友人にヴィーガンがいるんですけど、ずっとヴィーガンの人に抱いていた疑問って言うのが、その植物を作るまでに犠牲になった生き物とかが積み重ねでいることはどういう風に思うんだろうとか捉えてるんだろうと思ってて、何かその友達と一緒に来て一緒に植物のその前の段階の生き物の姿を考えるっていうのが結構新鮮で面白かったですね

筆者：そうなんですね。大丈夫ですかヒリヒリしなかったですか？

C：大丈夫でした笑

筆者：でも確かに作っている側としても、そういう思いはあって、遺体が他の生き物に食べられたらとか、熊の腹の中から人間の 1 部がみたいなニュースあるじゃないですか。ああいうのも中世ではケガレの要素とかにもなってたりして、そこの感覚ってどういう変化があるんだろうみたいなところを聞きたくて、意図して入れていたと言うところはあるので、ヴィーガンにつながるっていうの思ってなかったですけどそういう派生の議論をしていただくのはありがたいですね

C：よかったです

筆者：本題ですが、C さんは生身の遺体を食べれると言うふうにおっしゃってるんですが、なんで愛する人の生身の遺体を食べることができるのか、と言うのを教えていただきたいです。

C：そうですね、やっぱり体の 1 部になる僕最近体鍛えたりしてるんですけど、それこそ僕のタンパク質になったり、僕のカルシウムになったりして、それってもうほんとに内側に実際に入るみたいなものじゃないですか。と言う意味では一緒にいたい。本当に一緒にいたいからと言う意味で生身の遺体に入れました。

筆者：なるほど、肉体が重なるみたいなイメージがあるんですね

C：そうですね肉体的な思想の持ち主なので、そんな感じです

筆者：じゃあ今度は、初対面の人の方で灰を選んだ理由をお聞きしたいんですけど、結構早い段階で食べられますね

C：そうですね。まぁやっぱり遺体ほどのグロさは無いですし、そのグロさがないって考えると、人間の骨の形をしている部分だったら話は変わってくるかもしれないですが、白いカルシウムの粉末っていう意味では、もうそれにしか見えないみたいなところがあるのではないかなって思って、一番早い状態であれば灰いけるんじゃないかなっていうふうに思いました。

筆者：なるほどありがとうございます。ちなみにこの遺体より後の段階で愛する人を食べることっていうのはできますか

C：それは何かそもそも意味がないんじゃないかなっていうふうに思っちゃいますね。だって遺体の状態でもうタンパク質なら、まぁそれでも一緒にいたいって言う思いはありますけど、それ以降は全く別の存在になっちゃっていて、灰ならギリギリあるかもしれないですけどもうそれ以降は、愛する人の死者はいないも同然って感覚ですかね

筆者：なるほどありがとうございます。最後の質問させていただきたいんですが、もし愛する人を食べたいと言う初対面の人が現れたらどうしますか？

C：それは僕の愛する人にとっても初対面の人ってことですか？

筆者：そうです

C：その状態で聴くとすごく不審者に聞こえますね。僕も遺体を食べれるとは言え。普通に不審者なんで追い返しますね。と言うのはまぁやっぱり愛する人なので、独り占めしたいっていう思いとどこかで繋がってるみたいなのはありますよね。

筆者：確かに設定がやばいやつですよね。これであのー僕から聞きたいことは全てお聞きできたので以上と言うような形になります。インタビューはまずここで終りにさせていただければと思います。

【D さん】

筆者：じゃあ今日は時間とってもらってありがとうございます。インタビューさせてもらって、それじゃちょっと早速なんですけど始めてしまってもいいですか？

筆者：まずあの早速で申し訳ないんですが、この死を変換するって言う作品を見て、実際に投票してみてどういう風に思ったのかって言うのをざっくばらんにというか、何でも小さい事でもいいのでぜひ聞かせてもらいたいです

D：この作品をやるみたいなのを聞いた時から絶対見たいっていうふうに思っていて、それで見れて作品の前で多分すごい長い時間全部テキストも読んでて、他の人がどんなところ投票するんだろうみたいなのも眺めてそういう時間とかも含めて良い作品だなっていうふうに思っていました。で、私自身のその食べたいとか食べられたいとか、漠然と考えてるようなテーマとバッと結びつくというか、それを割とはっきりとした言葉で切り取りながら、説明しながら聞いてきてくれたっていうのが、なんか私の中でどうしたいのみたいな、感情をどこに持っていけばいいのかみたいな処理がされたって言うのが結構大きいかもしれないです。

筆者：すごい褒めてくれてうれしいです。ありがとうございます。

D：よかったよ。これめっちゃ

筆者：ありがとう。じゃあちょっと本題の質問させてもらえればなって思います。あと答えるとき、一緒に思いついたこととかはいっぺんに話してもらっていいので教えてください。じゃあまず早速 1 つ目なのですけど、愛する人の遺体を食べられるっていうふうに答えているので、まずなんでその選択肢を選んだのかって言う背景を聞いてもいいですか

D：そもそもまぁ遺体を食べるを選ぶつもりで今日は来てます。そして選んだって言う感じなんだけど、私自身の思いとしては、もうとにかく愛する人は独占し切りたいって言う私が独り占めしたいって思いがあって、なんかそういう感情ってすごい自分本位というか、もう 2 人の関係性とかじゃなくて、私がその感情で満たされてればいいみたいなところがあって、そういう意味では遺体を食べたいっていうのも私がその人を全部自分のものなんだって言う。証明をするためっていうか、他の人に対して威嚇じゃないけど示すため、そのためにお葬式とかで人前でかぶりつく位の感じで食べたいっていうようなそういう思いがあるのかもしれないなって見て思いました

筆者：人前で見えるようにするっていうのが重要なの

D：そう。他の人よりも、自分が愛情の大きさがでかいっていうのが見せるのが大切だから、1 人で一緒だけの時間に細々食べるみたいなのは違う。やっちゃいけないことで差をつけたい。

筆者：なるほどね。ちなみにずっと考えているって言ってたけど、遺体を食べることに関して何かそれを考える理由とかきっかけとかってあったりする

D：でも最近だとやっぱりチェンソーマンとかは読んでるけど、食べるってちょっとエロい意味も込められてる気がしていて、なんか噛み付くって言う事とかもすごいそっちに近いからやっぱり愛情表現とかそういうものと近いのかなって言うふうに思ったりもしてる

筆者：確かに、男女の仲になることを食うみたいな表現をしてて、それはある種ちょっとカニバリズムっぽい要素があるから、なるほどね。

筆者：ちなみに、初対面の人の方は、情報を選んで、まぁつまり食べられないって言う選択肢を選んだんだけれど、それはなんでかって背景があったりしますか？

D：そもそもこの人 1 人って言うふうに決めたら、その人の遺体を食べられる位まで仲を深めるって言う悪い意味で依存してるみたいな感じになってるっていうのは自分でわかって、だからこそ、その人とその人以外みたいなものをしっかり分けるって言う思いが強くて、だからその人以外は食べられないみたいな。そういうところはしっかり分けるみたいなのか自分の本音なのかわからないけど大事にしてることなんじゃないのかなって思ってそうしてる。

筆者：ちなみに、愛する人だったら遺体以降でも何でも食べられるみたいなのある？

D：ほんとに何でも食べられると思う。腐食とかだって臭いとかなら全然これ愛してる人のやつなら飾ってあるやつ持って帰ってやってもいいくらいには全然大丈夫だと思う。。

筆者：初対面は

D：初対面は無理だって

筆者：はいこれでインタビュー終わりです

【E】
筆者：では、早速なんですが、インタビューをしていきたいと思います。よろしくお願いします。

E：よろしくお願いします

筆者：E さんははじめての人でも愛してる人でもどっちでも生身の遺体の状態で食べられるってお答えなんですけど実はインタビューでこう答えられた人ってはじめてで、やっぱりどの方も初対面の人の方がちょっと生身では無理って言う方が多いんですが、どうして生身で食べることができるのかの背景について教えていただいてもいいですか？

E：はいはい、まぁでもシンプルに感覚として亡くなっているわけですから、もう魂、魂があるのか問題ありますけど、もう痛くも痒くも何されても反応はないわけで、そうだったら健康的な被害さえ仮に気にしないんであれば、もうそれはただの肉なんで愛していようが愛してなかろうが、まあ、肉として頑張れば食べられるかなぁって言う感覚ですね。

筆者：なるほどちなみにその頑張ればっていうのはどういう性質の頑張りですか？気持ち悪いのを我慢すると言うような感覚ですか？

E：いやまぁ頑張るとは言っても、そこで刺身とかたたきみたいな感じで、普通に口に運べるサイズと口に運べる味の状態だったら、まぁあんまりおいしくないとしても頑張れば食べられるかもしれない、という感じの頑張りです。

筆者：なるほどちなみに何か嫉妬とかって感じますか？例えば愛する人を他の初対面の方が食べたいみたいなこと言ってきたらどうされます？

E：状況にもよると思いますけど、まぁでも愛する人が亡くなって食べる状態って言ったら、なんか僕の頭の中だと相当切羽詰まった状態なのかなって言う感じもあるので、多分食べたいって言ってる人も相当お腹が空いてる。なんか世界が荒れ果てて荒廃してみたいな世界観になってるんですけど、そういう状態であれば全然一緒に食べてあげたほうがまぁ愛する人も喜ぶと思います。私はでも、亡くなっている以上はやっぱり最初に言ったように肉なんで大きい肉は共有しようと言う感覚はあるかもしれませんね

筆者：ちなみに生身の遺体はお肉として食べられるって言うことなんですけれども、それ以降の状態でこれはちょっと食べられなさそうだな、みたいなのとかってあったりしますか？

E：うんまぁやっぱり土は食べられないものなので、それは食べられないかなって言う思いとかありますけど、後はやっぱり腐肉ですね。お肉としても美味しくないお肉なので普通に目の前にしてもさっきも匂いかぎましたけどさすがに無理だなって言う感じがしましたね

筆者：なるほどありがとうございます。これでインタビュー以上になります。ご協力ありがとうございました。

【F さん】
本日はインタビューよろしくお願いします

筆者：よろしくお願いします。まずはこの作品見に来ていただいて、本当にありがとうございます

F：あの Facebook で紹介されてるって言うので、ちょうど私自身もこの作品を見なきゃいけないんじゃないのかなみたいなことを実感するタイミングだったので、とってもいい時期に見る機会をもらえて嬉しいなと思ってます

筆者：ありがとうございます。まずはちょっといきなりになってしまうんですけれども、この作品を見るきっかけって言うものをお話しいただけるということでしたので、もしお気持ちが変わらないようでしたら、ぜひお聞かせいただけたらなと思います。

F：はい。多分ね大須賀くんと同い年ぐらいだと思うんですが、ちょうど 1 年前にね息子がなくなってずっとその遺体。今もちろん火葬はしてあるんだけれど、お骨の状態で家にあって、そのお骨をこの間ずっとどうすることもできなくて、その喪失感がずっとついてくる感じの状態とどうやってこれから付き合っていけばいいのかなぁっていうの期間があって、私自身いろいろ模索していく中で、今回の展示があったっていう感じです。

筆者：なるほど、何か後展示を見ることによって起こった感情の動きなどがあればぜひ教えていただきたいです

F：はい、作品についてのお話を聞いたときに、結構情緒的なものなのかなって言うふうに思ったんですね。テーマがテーマなだけに。ただ実際に目にするとすごく整備されていて、かつ文章もかなり論理的に書かれていて、私自身の感情が揺れてしまうんじゃないかなと心配に思ってたんですが、そうではなくて、逆にひとつひとつの整理がついていく。そういう感覚にさせてくれるような作品でした。

筆者：なるほどちなみにその整理がついていくって言うような感覚は、実際にこの問いについて考える中で生まれていったものですか？

F：そうですねなんか実際に集中して向き合って考えるだけとかではなくて、それ以外にも共有しているっていうことが大事なのかなっていうふうに思いましたね。やっぱり誰がどこに入れるのか、どんな感じの雰囲気の人がこういう場所に入れるんだとか、カップルで来ててどこに入れるんだろうとか、何かそれぞれのある意味愛情の形とかの表れだと、その表現方法としてのこの投票とかが使われていて、あと弔いにどう折り合いをつけるのかみたいな思いをみんなが会話をしていないけれどシェアしてるみたいな状態が心地良いというか、心を落ち着ける、喪失感が埋まるような原因になったんじゃないかなっていうふうに思います

筆者：なるほどありがとうございます。では次にですね愛する人を食べるにあたってのいろいろな背景についてお聞かせしてもらえればというふうに思いまして、愛する人を食べるならということで灰を選ばれてるんですが、なぜこれは灰に入れられたのかっていうのはありますか？

F：そうですね、実際に息子が亡くなって、荼毘に付された時に、私自身もその骨をちょっとかじってみようかって言う思いがよぎった瞬間があったんですね。ただその時はしていなくて、その時のことも振り返りつつもう荼毘に付されているって言うことは、多分もうかじっても怒られないんじゃないかなって言う。そういう思いもあって選びました

筆者：実際に灰をかじりたいって言うそういう経験があられたんですね。それはどういった状態で行いたいと考えていましたか？周りの人に見られないような状態でしょうか？

F：それを言われて今考えたんですけど、どちらかと言えば私はもし周りの人が許してくれるのであれば、少しずつでも分け合って持ち帰ってもらえたらなと思います。私だけが持ってるんじゃなくて彼が歩んできた人生の中で渡すべき人たちにそれぞれ持ってもらうっていうことができたら、すごく幸せなのかもしれない食べても食べなくても良いので、

彼の石のごく一部を引き継いであげるみたいな、なんかそういう意味でみんなで遺骨を食べたりする行為がそんな感覚に近づけさせてくれるんじゃないかなってちょっと思いました。

筆者：なるほどちなみに生身の状態で食べなかった理由というのは教えていただいてもよろしいですか？

F：やっぱり後ろめたさは食べるとなったら感じてしまって、せっかく食べるなら何か私自身の心持ちも納得できるような形で食べたいというのがあって、そうすると少し生身っていうのはグロテスクで私にとってはハードルが高いのかなっていう。食べたい気持ちはあるんだけれども、少し心理的に及ばなかったっていうのがありますね

筆者：なるほどありがとうございます。ちなみに初対面の人の場合では煙に投票されていますけれども、これは何か理由があるでしょうか

F：臭いって勝手に染み付いたりとかしてくるじゃないですか。目って見いようにしようと思えば見なくてすみますし、食べるっていうのももちろんそうですけど、においって勝手にやってきちゃう感じがあります。それでやっぱり煙の匂いで言うと、お線香の匂いってお盆の実家に帰ったときの匂いで、やっぱり普段は他人なんだけれど、その時だけ親戚として一緒にご飯を食べる人たちがいてって、なんか他人と一緒に 1 年に一回すごく仲良くなって墓参りするみたいなそういう記憶と結びついているんじゃないかなと思って、煙を選びました。

筆者：なるほど、お線香の煙の匂いって言うところがやっぱりその死のイメージを喚起する上で普遍性があるって意味でも結びつきやすいって言うことですかね

F：やっぱりね、おうちの玄関先とかでもお線香の匂いってすることがあるし、その時にわざわざ亡くなった人のこととか考えないけど、でもまぁこの家の弔いがあるんだなっていう感覚にさせてくれますよね。

筆者：なるほどありがとうございました。今回のインタビューはですね私から聞きたいことはこれで以上になりますので、一旦閉めさせていただければと思います。ありがとうございます。

【G】

筆者：ではインタビュー始めさせていただきます。ここではですねまず最初に作品に対する印象をお聞かせいただければと言うふうに思っていて、その後愛する人を食べたときの理由と初対面の人を食べたときのその理由についてお聞かせいただければって思います。ではまず死を変換する作品をご覧いただいて何かこう気付かれたことでもいいですし、全く関係なく思い出したこととかでも構わないんですが何かありましたらぜひ教えていただきたいです

G：そうですね全体的に投票を見て思ったことなんですけど、本当にこんなに生身の遺体を食べれる人がいるのかっていうのが結構シンプルに驚きました。もっとみんなできないものだと思ってました。もしかすると生身の遺体のパネルのところにもっとがっつり生っぽいものがあるとどうなるのかみたいなのって、ちょっと結果が変わったのかなっても思ったりしましたね。

筆者：なるほどなるほどありがとうございます。そうなんです、ちょっとね骨壷だとシンプルでかつ陶器なんで遺体のグロテスクさがなくてちょっと迫力が足りなかったかなっていうのも感じていまして、次回ねやることがあったらそこは修正できればって言うふうに思っています。

G：何がそういうインパクトを残せるものか、もうちょっと思い付かないですけどあったらいいですよね

筆者：そうなんですよ。探したんですけどね。なかなか見当たらないんですよね
ではここでですねちょっと最初の質問っていう形でなぜ愛する人の遺体を食べるときに灰で食べようと思ったのかその背景をお聞かせいただければと言うふうに思います。

G：やっぱり灰だとその人のお骨って言うものがその白いものの中に骨として残ってるっていうふうに思いますし、それを食べるって言うことによって体内に入ってくるって言うような感覚があって、それはやっぱり 1 つになる。亡くなって別れてしまってもまだ少しだけでも一緒にいられるみたいな感覚になれるんじゃないかなって思ってます

筆者：なるほどありがとうございます。ちなみにですねこの生身の遺体を選ばれずに灰を選ばれた理由っていうのは何かありますか？

G：やっぱり生身だと亡くなった人を傷つけちゃうみたいなそういう感覚がありますよね。なんか私自身もちょっとやってはいけないことをそれによってやってしてしまったって言うような感覚を抱くことになるんじゃないか。と思うとやっぱり一本線を引かなきゃいけ

ない、身体損傷みたいな意味でも避けた方が良いのかなっていう。そういうやっちゃいけないみたいな感覚がありました。

筆者：なるほど、感覚的な拒否感って言うものがあると言う事ですね

G：ありますね。何かこれが原因っていうのは一言では言えないですけど何かあります。

筆者：なるほど。ではですね、次に情報を選ばれましたか。これは経口摂取ができないと言う意味での情報なんでしょうか？

G：そうですね選択肢としてはそうなっちゃうんですけど、でも何か情報はすごくいいなと思っていて特に人がなくなると、亡くなった直後はバタバタしてるんですけど結構だんだんその生活習慣みたいなものが変わってくることによって、亡くなったことを実感するみたいな感覚があるなっていうふうに思っていて、それはある意味その人の行動パターンと言うような存在と言うより行動履歴的な情報なのかなと思っていたりして、それの方がなくなったって言うことの実感とかに通じる気がして、面白いなってふうに思いましたね

筆者：なるほどありがとうございます。ちなみに愛する人が亡くなったと言えば、その灰以降のもので、これは食べられないって言うものはあったりはしますか？

G それは特にないかなっていうふうに思いますね。あんまりそれ以降で食べられないものはなく何の状態でもまぁ特に作物なんかは食べてみたいなって言う感覚はありますね。料理ができるんで

筆者：なるほどありがとうございます。一応私からですね。今回お聞きしたい事はこれでインタビューは以上になります。ありがとうございました。

【H さん】
筆者：本日はインタビューよろしくお願いします。一応今日の内容としてはですね。今回見た作品に関して何かしらフィードバックだったりですね。あのレビューをいただきましてその後でなぜ投票場所として愛する人で土葬の作物を選ばれたんだろうって言うところはぜひお聞きしたいなと。また初対面の方では動物を選んだ理由ってのはなぜなんだろうっていうのあのお聞かせいただければといます。よろしくお願いします。

H：はいよろしくお願いします

筆者：ちょっと早速お時間もありますので、質問させていただきたいんですけれど、愛する人の方で土葬の作物っていうの選ばれた理由っていうのはなぜか、また火葬の作物という選択肢もあったと思うんですが、土葬の方を選んだことの比較っていうのも含めてちょっとお聞かせいただければと言うふうに思うんですけど

H：そうですねまずなぜ土葬作物を選んだのかっていう意味では、まぁ食べられる状態だからって感じですね。食べられるなら美味しく食べてあげたいなって言うふうに思っていたのと、あとやっぱり作物って生き物が亡くなって、そしてそれが地に帰ってまた食物になってそして体の中に入ってきて、また私が亡くなってみたいな循環の中に位置づけられると思っているので、何か輪の中に置いておきたいみたいな思いがあって、ある種の生活のルーティンみたいなものの中にも置いておくというのもそうですし、もっと大きいルーティーンみたいなものでもそうですし、ルーティーンみたいな輪の中に愛する人を置いておきたいなって言うふうに思いました
　ちなみに火葬と比較してってところですけど、何で土葬にしたかっていうと、火葬って粉末なんで、何か飛んでっちゃったりしそうで、土葬は何かより直接的に体がこの下に埋まってるんだみたいな感覚があり、亡くなった愛する人と通ってる感じがあっていいなってふうに思ったからですね

筆者：なるほどちなみに動物を初対面で選ばれた。これには何か理由があったりするんでしょうか？

H：なんか初対面の人のほうはあんまり食べたくないなみたいな感覚もあったんですけど、でもまぁ動物って言う状態であればなんかそもそもそれってもう一つの他の生命に置き換わってるってことじゃないですか。そういう意味では僕たちも何か常に声明を食べて生きてるわけで常に他の生き物の姿を背負ってるって意味では別に同じことかなと思って、僕たちがする気にせず生きているように僕の興味のない人がその言う形で他の生き物の中にある状態でも、僕の場合特に何も感じないんじゃないかなっていうふうに思って動物を選びました。

筆者：なるほど、確かにそうですよね。ここにいる全員ほとんどが他の動物の死を取り込んでいる感覚ですよね。

H：そうですねそういうのは別に当たり前じゃないってこの作品を見る中で考えたっていう形ですね

筆者：ありがとうございます。では次ですね愛する人を土葬の作物の状態で食べられてい

うことですが、それ以降の状態では結構自由に食べられるって言う感覚ありますか

H：はい全然ありますね。まぁもう後はいわゆるケガレっていうんですか、そういうのはあの薄まっていくって言うだけだと思うので、まぁ変換の段階がちゃんとあると思うのでもうここからは食べられると言うふうに思います。

筆者：ありがとうございます。ちなみにですねこの灰の前の段階の遺体が作物の前の段階ですね。遺体が食べられない理由ですとか生身の遺体食べられない理由ってのは何かあるでしょうか

H：そうですねやっぱりまぁ 1 つのラインとして直接人間を食べるって言うのは、避けたほうがいいのではって言う何かルールみたいなものがあるのかなあって思いましたね。結構それをやぶれる人っていうのも多いんだなぁっていうのは作品を見てて思いました。

筆者：ありがとうございます。私から聞きたい事はこちらで以上になるので、一旦ここでインタビュー示させていただければと言うふうに思います。ありがとうございました。

【I さん】

筆者：じゃぁインタビュー始めるんだけどじゃあ早速なんだけれども、今回は火葬の作物の状態で食べられるって答えてくれたんだけど、それはなぜかって言う理由はありますか？

I：そうだね、火葬やっぱりお葬式の基本の形だからという気がする。それをちゃんとクリアしてるみたいな、あとやっぱ作物って言う状態だからまぁその状態なら食べられるんじゃないかなぁみたいな。でもなんかやっぱり僕自身の抵抗感みたいなのがあるから、食べるんだとしたらなんか小麦で育ってくれてパンにしてみたいな、それぐらいもう 1 段階後加工する位のやつじゃないとだめかもしれない。

筆者：はいはい、ちなみにそれより前の灰とかはまぁ一応焼いてはあるけど、やっぱり食べられないって言う思いはある？

I そうだねー。なんかそのどうしてもカニバリズムすぎるっていうのはあると思うし、そもそもそのカニバリズムってやっちゃいけないものなんだって言う思いがある。映画とかでしか見たことないけど、実際にやってる人もいるって聞くけどなんか痛くないけど痛いみたいな感じとかグロいみたいな感じしちゃうから、やめたほうがいいのかなって言う気

持ちが先走っちゃうみたいな感じだね。

筆者：ちなみにやっぱ食べるってなったら、どういう状態で食べるって言う事もそうだけど、どういう風に加工して食べたいみたいなのとかっていうのも考えるものなんだね

I：一緒に来た子とかは灰をクッキーにして食べたいみたいなこと言ってたりして、なんか結構周りの人もそういう会話をしてた。そういう会話を聞くのも結構楽しかったりしたのがなんかこの作品の特徴なのかなって思うんだけど、どういう料理で食べるのかみたいなのって、この作品にポップな感じで入れる入り口みたいなところはあるのかなっていうふうに思ったよ

筆者：なるほどね。ちなみに作物で言うと土葬の作物ってのもあるんだけど、これはなんで駄目だったっていうのはある？

I：土葬の作物ってさ、土の中の養分とか吸ってるわけでしょ、土の中にさぁ生身の遺体があるわけでしょう。つまり生身の遺体から出てくるエキスを吸ってそれがそのままその植物になってるんだよねってなると何か腐ったものを間接的に食べてるみたいな、なんかそういう感じがしてしまって、そういう意味それは嫌だなぁって言うので選ばなかったっていう感じかな

筆者：なるほどね。やっぱり水とか土壌とかそういうのは気になっちゃうのかな

I：気になるね。なんかシミ出てくるみたいな感じするもんじわじわ。その下に人いるって思ったらね。美味しそうではあるんだけどね。知らずに食べたら栄養ありそうだから

筆者：まぁそうだよね。ありがとこれで実はあの聞きたいこと終わりなんで一旦閉めます。

【J さん】

筆者：インタビュー始めさせてもらうんだけど、インタビューの内容としては作品に関して何か後言いたいこととかフィードバックありますかって言うことを聞いてで、その上で愛する人を食べるならどんな状態か初対面の人を食べるなら、どんな状態か、それがなぜかみたいなのを聞かせてもらえたらなって思っています
で早速なんだけど、作品に関して何か思ったこととかありますか？

J：私がこの作品見たときに間、実際にも選んでるから多分気がついてると思うんだけど、一番後ぞわっとしたのが熱で、やかんを実際に温めてたでしょ。それを触った瞬間なんかただのフローチャートじゃなくてほんとに生き物がいるみたいな感覚になって、背筋がぞ

っとする感じがあって、そこで一気に引き込まれたみたいなのがあったから、その延長線もあって熱を選んだ。

筆者：じゃぁ、やかん触れてなかったら、結果は変わってたかもしれない

J：多分変わってたと思うあそこでぐっともっとちゃんと向き合おうみたいなそういう感覚になる。それになんか不気味な感じにもなるし。

筆者：そうかそういう感覚になるんだ。そこでなんで熱を選んだのかって作品のやかん以外の理由って何かあったりするの？

J：あったかさってある意味命そのものだと思っていて、なんで隣に好きな人がいて欲しいかって言ったらあったかいからみたいなのはあるし、その人が隣で寝てて布団のあったかさが残ってると、人がいたんだなみたいな何か命があった事の痕跡って言う意味では、すごく生命そのものに近いのかなみたいなふうに考えてて

筆者：確かに生命がいなくなくなること自体冷たくなるって表現があるしね

J：あ、そうそう、確かにそういう感覚が呼び起こされてそれで熱にしたみたいな背景があるから、後はお茶とかそういう状態なら実際に何か飲めそうだなっていうのもあるし

筆者：なるほどで、初対面では煙を選んだんだね

J：初対面の人のほうはなるべく極限まで早い段階であればどこで摂取できるのかなって言うことを考えた結果、煙の匂いだったら大丈夫かなって。今何か火葬場の煙とか特に気にならないかもしれないな。人の焼ける匂いって独特の匂いがあるみたいな話もするから、そういう意味では実際に嗅いだら変わるのかもしれないけどね。

筆者：ありがとうございます。一応今回聞きたい事はこれで以上なんだけど、ちなみにあと熱の前の状態でなんで食べられなかったみたいなそういう感覚ってある？

J：熱の前の状態だと生身の遺体とかだと思うんだけど、なんかそういうのはやっぱりどうしても気持ち悪いって思っちゃう。切ったりしてそれを実際に食べてるところを想像するとそれはできないなって思うね。

筆者：なるほどじゃあ最後にちょっと聞きたいんだけど、この熱の後であればもうどこで

も食べられるって言う感じ？

J：そうだね。でもこの後ろの作物と比べてもやっぱ熱が好きというか、まぁ直接遺体を食べてるわけじゃないしそういう意味では作物より熱の方が食べやすいみたいな感覚はあるのかもしれないね。

筆者：分りました。ありがとうございます。これで質問は以上です

【K さん】

筆者：本日はインタビューのお時間いただきありがとうございます。よろしくお願いします。

K：よろしくお願いします

筆者：では、早速ちょっと質問させていただければと思うんですけど、愛する人を食べたいって言う時は作物選ばれましたけどこれってなんで土葬の作物にされたみたいなのとかってあるんですか？

K：なんか昔愛してる人の遺体が埋まったところから生えた桃の木があって、それがすごくおいしいみたいななんかそういう漫画を読んだことがあるんですけど、川原泉さんの。その漫画の影響みたいなのもあるのかもしれないんですけど何か後美味しそうだなってふうに思ったのと、やっぱり何か栄養って言うだけじゃなくて、亡くなった人の思念みたいなものが何かそこに宿っているんじゃないかなって言う感覚があってそれで土葬の作物をやりました

筆者：なるほど火葬の作物とはやっぱり違いますかね

K：そうですねやっぱり火葬したものってもう散り散りになったものですし、わざわざそれが作物を美味しくしてくれると思わないので、まぁ直接的なって言う意味でもやっぱり火葬よりは土葬って言う感じですかね

筆者：なるほどありがとうございます。ちなみにその後初対面の方では煙を選ばれてますけど、これ煙を選ばれた理由っていうのは何かありますでしょうか？

K：そうだねー。やっぱり煙って今お線香のイメージが強い。お線香って仏教だけどそれ

だけじゃなくてキリスト教でも煙出す装置を使ってたりするの見たことあるし、割と普遍的にお祈りとか弔いみたいなのと結びついている気がしてて、そういう意味でもう別に誰を焼いた煙であっても、煙自体はあまり不自然じゃないみたいな。そういう意味で選んだ。

筆者：なるほどありがとうございます。最後に今お聞きしたいのが、土葬の作物の前で食べることができないのはなぜか、そして土葬の作物の後の変換段階では食べることができるのか教えていただきたいです。

K：前の段階のほうの話から行くと前の段階は腐肉とかですよね。腐肉はやっぱさすがに実際に見せてくれたっていうのもあると思うんですけど、やっぱり肉っていうのは凄い腐るんだなって言う当たり前のことがわかって、その苦しさをやっぱりちょっと自分には受け止めきれない。やっぱり苦しいですね。腐ってしまうと言うことに目を向けなきゃいけないって言う気持ちへの苦しさがあります。だから無理です。後ろではまぁ多分どこでも大丈夫かなってふうに思いますけど、逆になんか亡くなった愛する人が、どんどん段階的に消えていってしまう感じがして、そういう意味ではちょっと寂しいかなっていうふうに思いますね

筆者：分りました。ありがとうございました。

【L さん】

筆者：本日はよろしくお願いします。聞きたいこととしては電気と煙それぞれ入れていただいたと思いますが、なんで愛する人の状態で煙に投票して、初対面の人では電気に投票したのかっていうところでぜひ詳しくその背景のところをお聞きしたいなと思っています。

L：お願いします。背景ですよね、まぁ理由っていうことですよね。理由としてはまずなんで煙を選んだかというと煙ってなんか聞くところによると亡くなった人って煙でご飯食べるって言うじゃないですか。その匂いでご飯を食べてるみたいな話を聞いて、もし愛する人が亡くなったんであれば、食卓を共にしたいって言う思いがあるので、そういう意味では一緒のものを食べてるって言う感覚を共有できるんじゃないかなっていうふうに思って愛する人の煙を食べたいと思いました。

筆者：なるほど、仏教の考え方でありますよね。その煙を食べるって言う考え方

L：そうですねそれにちょっと近いかなと思います。電気の方はなんで初対面の人が電気でいけるのかっていうと AED ってある意味緊急事態に必要っていう意味で医療行為じゃ

ないですか。で同じ医療行為でかつ生身で他者を取り込む臓器移植があるじゃないですか。で臓器移植って駄目なことと捉える宗教とかもありますけど、基本的にそれが気持ち悪いものとして受け止められてるみたいなことってないじゃないですか。必要な医療の処置みたいだと言う意味では、AED もそれと全く同じだと思いますし、ましてやもう 2 回変換されて電気になっちゃってるので、死者とはもう全く関係ないんじゃないかなってふうに思って選びました。

筆者：なるほどなるほどありがとうございます。ちなみにその煙の前段階ですね。灰の状態で食べることができなかったり、遺体の状態で食べることができなかったっていうのにはどういった感覚でその判断をされたのかみたいなのってありますか？

L：まぁやっぱりお葬式とかでも火葬しないと弔いって終わらないですし、その骨をお墓に入れないと終わらないって言うところがあるので、その前の段階でこちらから手を出してその状態を壊してしまうのはやってはいけないことなんじゃないかなっていうふうに思って、特に干渉しなくてもいいような自然の状態で取れるような煙にしました

筆者：なるほど、その後、逆に煙の後の変換段階に関しては、拒否感があるものとかってあったりしますか

L：そうですね愛する人に関しては特にないかもしれないですね。もしかするとこれは変換段階として並んでるところですけど、熱とかは何か生暖かさも相まってちょっと気持ち悪いなって思っちゃうかもしれないですね。

筆者：なるほど、温かさと言うものはやはり人間味のある感じがしてしまったのですか？

L：そうです。なんか人がいるような空気感みたいなのがちょっと 1 周回って怖いのかなって言う気がしてます。

筆者：なるほどありがとうございます。本日のインタビューはこちらで以上になります。ありがとうございました。

【M】

筆者：では、早速インタビュー始めさせていただければと思います。愛する人を食べる方法においては電気に入れていますが、電気に入れた理由を教えていただきたいなって思ってまして。

M：電気に入れた理由は自分の命が危ないってなったときにその命を本当に支えてくれる

よううなある意味ご先祖様が守ってくれたじゃないですけど、なんかそんな守護霊みたいな存在、空気感があるなっていうふうにテキストを読んで思っていて、それはいいなって思ったし実際になんかちょっとやってみたいなって思いました。そしたら愛する人に助けられたって言う思いでずっと生きていけるっていうのは、もう二度と会えないと言うことを考えるといいことなのかなってふうに思うね

筆者：なるほどありがとうございます。確かにそういう形の守護霊みたいなものがあってもいいような気がしますね。ハイテクな感じしますね。

M：未来だよね電気の幽霊って

筆者：ほんとに開発すぐできそうな感じもありますね。で、初対面の方が情報ですね。これ情報に入れた理由っていうのは何かあったりしますか？

M：これはシンプルに食べられないって言う意味で情報入れたかな。初対面の人は何か別に入ってきてもらってもうれしくないっていうのはあるし、あんまり僕としても受け入れたくはないなぁ。ということでここは情報にしました。

筆者：なるほどちなみにその受け入れたくないって言うような思いってどういうことに起因してというかどういう感覚に近い拒否反応っていうのは何か言語化できたりとかっていうのはしますか？

M：でもやっぱり遺体ってただでさえ何か避けるべきことみたいな方向性がある中でそれを入れたいって言うのって言うこと自体はもう一昔前だったら結構珍しいことだったのかもしれないし、そういうケガレの拒否反応は僕の中では、結構残ってるかもしれないね

筆者：なるほどありがとうございます。僕からお聞きしたい事はこれで以上になりますので、インタビューを終わらせていただけたらと思います。ありがとうございました。

【N さん】

筆者：インタビュー始めさせていただくんですが、選ばれたのは初対面の人が火葬の作物、愛する人は土葬の作物と言うような形で選ばれてますけれども、これはどうしてここを選ばれたのかっていうのは何か理由があったりしますか？

N：感覚で言えば多分生身の遺体の状態でも食べられたと思うのね。でも人間てやっぱり代謝で体がどんどん入れ替わっていくじゃないって言うことを考えたときに、生身の遺体を食べるとね。それで一回食べたらもうそれで終わりで多分そのうち体からその愛する人

が流れ出てしまうのね。でも作物なら。亡くなった人を埋めた場所に苗を植えて、そこで育った作物を食べるとかしていけば、ずっと食べられる。愛する人を継続的に食べられるという意味では、このサイクルを作るほうがずっと一緒にいられるんじゃないと思ってあえて作物にしました

筆者：なるほど確かに、そのやり方できれば、1 番効率的なアイデアですね。

N：僕自身作物にしたのはもちろん食べられるっていうのもあるし、だから家の家庭菜園とかで毎日収穫して毎日食べる。そしてずっと愛する人と一緒にいられるって言うような状態を作り出すことができたらいいなぁって思うし、なんかこの作品を見たことによって、いま家に猫の遺骨がずっとあるんだけれど、そういう意味ではヒントをもらったような気がしていて、家の庭に猫を埋めて、そこで家庭菜園し続けるみたいなのはありだなって普通に思った。

筆者：それめちゃめちゃいいじゃないですか！

【O さん】

筆者：インタビューを始めさせていただきます。O さんは実はインタビューする中だと、どちらも情報、つまり食べられないって言う選択肢に入れたのは唯一です。どれだけ変換しても経口摂取はできないって言うふうに判断をしたのかって言うその背景をまずお聞きしてもいいですか

O：まずは何かこの作品を観させてもらって、ほんとに僕自身の感覚として、いわゆる他の人を食べるっていうのはできないんだなっていう、どういう関係性があってもできない、それは相手をいたわるっていう思いでもそうだし、自分自身の拒絶反応みたいなものを初めて知ることができました

筆者：なるほど、作品を通して忌避感を発見したっていう。まぁそもそもこんなこと考えることは無いと思いますが

O：いやそうなんですよ。まずそれを考える機会がないっていうのはもちろんありますよ。その上で背景としてはやっぱりはどうやったってできないってことです。別に健康に悪いとかそういう理屈を作ろうと思えばいくらでも作れるとは思うんですけど、まぁ普通にでもそれ以上に何か日本の水道は発達しているけどトイレの水を飲みたくないとか何かそういう感覚に近い拒否感というのがありますね。

筆者：なるほどじゃあちょっとお聞きしたいんですけども、O さんは名前とかその亡くなった人の履歴とか何かそういった情報に対しても忌避感を感じたりすることってあるんですか？

O：それで修学旅行の時のこと思い出したんだけど、沖縄に平和記念公園みたいなあるじゃないですか。そこで亡くなった方の黒い名前の刻まれた石が並んで遺体があるわけじゃないのにここを離れたいという感覚になったことがありましたね。やっぱりそういうふうに故人の名前に対する怖さみたいなものをそういえばあるなって言うのをこの作品を見たと思い出して情報への怖さみたいなものはずっと持ち続けてるのかなって思う。

筆者：ありがとうございます。聞きたい事は以上ですので、これでインタビューを終わらせてもらえればと思います。